

1. ガイドラインの作成の背景と狙い

2. 総論：連携を促進するための方策のポイント

3. 各論：とりあげた施策

4. 各論：事例を中心とした内容の抜粋

1. ガイドラインの作成の背景と狙い

誰もが想定できない社会の到来

■ 背景認識

- 物流人材/人手不足、
- 燃料価格高騰、
- 地球環境問題への対応（CO2削減）
- 貨物輸送の少量多頻度化などを背景に、物流コストの上昇圧力が増大する

我が国のサプライチェーンが中長期的に持続可能な形で発展するよう、物流を取り巻く環境の改善を図っていくことが重要である。

1. ガイドラインの作成の背景と狙い

物流も従来の取組みでなく、「連携」がキー

■ 対策としては

- 物流事業者における人材/人手確保、効率化などの取組だけでなく、
- 荷主企業も、物流効率化、平準化、物流慣行の改善に取り組むこと、
- それも物流部門単独では無く、自社の他部門と連携したり、発荷主同士が連携したり、発荷主と着荷主が連携して取り組むこと

1. ガイドラインの作成の背景と狙い

難易度が高い「荷主連携」をガイド

- 『荷主連携による物流高度化ガイドライン』を策定し、荷主の側からできる物流効率化の具体的手法、事例を提示することにより、荷主側の連携取組を支援する。

荷主にフォーカスし、オムニバスのとりまとめ

先行事例を保有する企業の委員からなる検討会で討議

1. ガイドラインの作成の背景と狙い

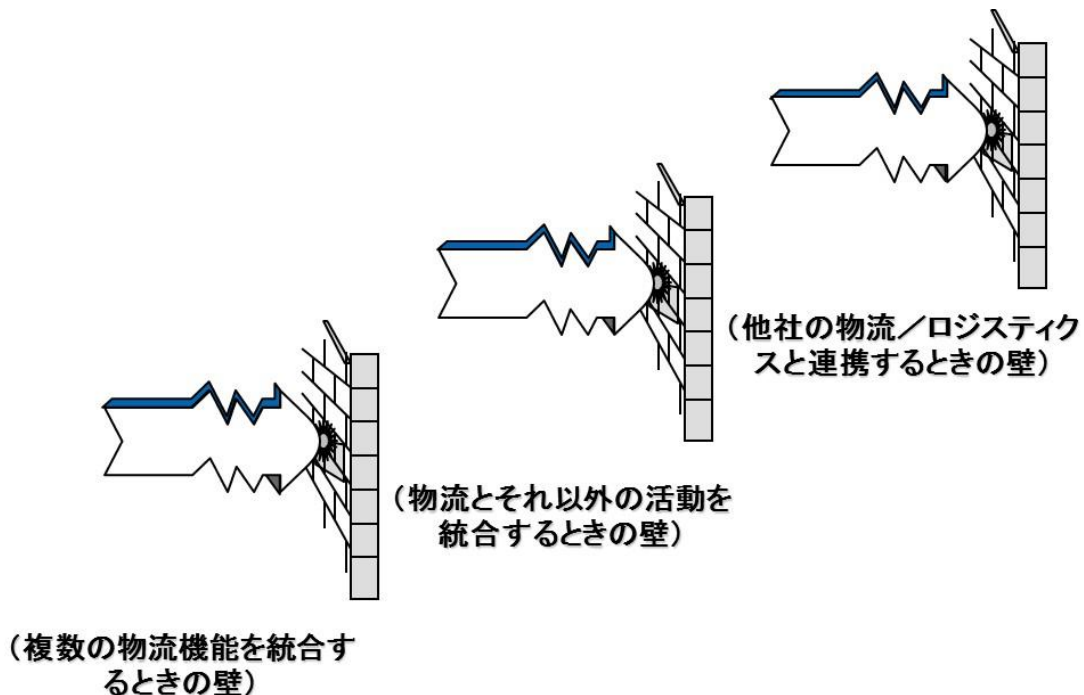
2. 総論：連携を促進するための方策のポイント

3. 各論：とりあげた施策

4. 各論：事例を中心とした内容の抜粋

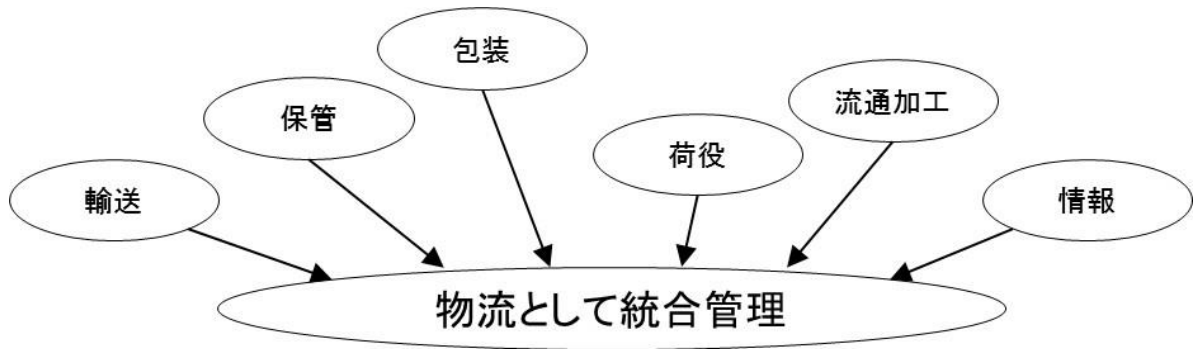
2. 総論：連携を促進するための方策のポイント

連携を促進する壁は大きい



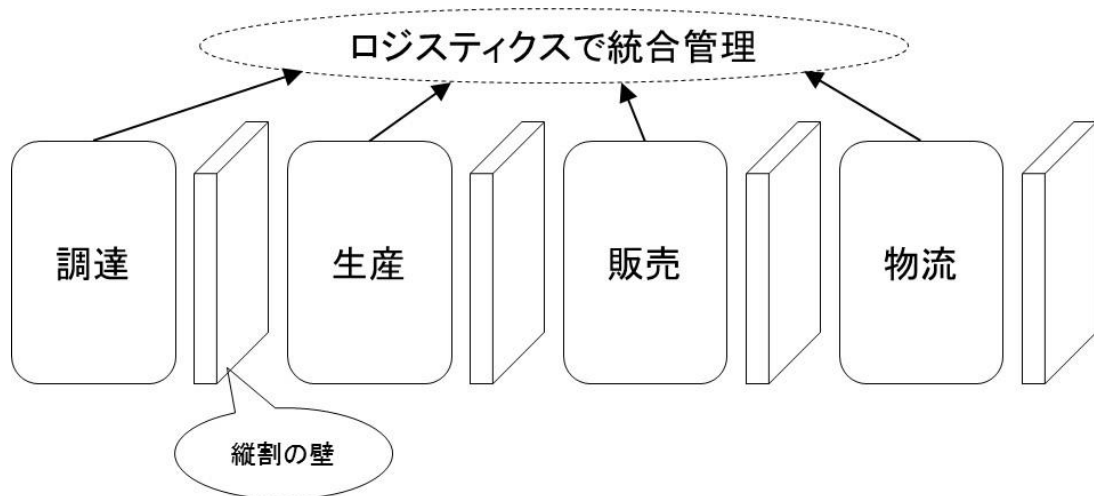
2. 総論：連携を促進するための方策のポイント

従来の物流の総合管理



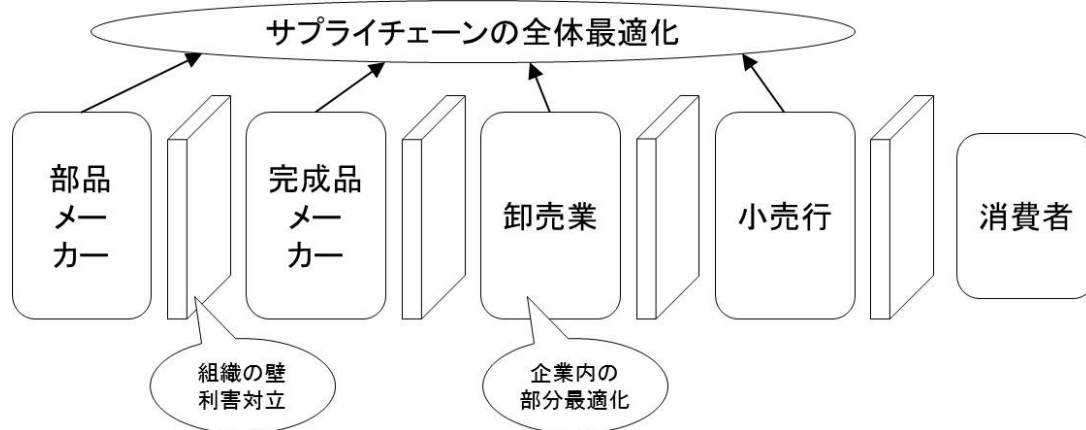
2. 総論：連携を促進するための方策のポイント

ロジスティクスの観点の壁



2. 総論: 連携を促進するための方策のポイント

SCMの観点からの壁



2. 総論: 連携を促進するための方策のポイント

連携を促進するためのキーワード

- 企業との連携には「Win-Win」が重要
- 「常識(思い込み)を疑え」・「ものさしが異なる」
- 上流・下流、同業種・異業種との出会いの場
- コストや品質だけでは、乗り切れない
- 被害者である前に、加害者になっていないか？

1. ガイドラインの作成の背景と狙い

2. 総論：連携を促進するための方策のポイント

3. 各論：とりあげた施策

4. 各論：事例を中心とした内容の抜粋

1. ガイドラインの作成の背景と狙い

2. 総論：連携を促進するための方策のポイント

3. 各論：とりあげた施策

4. 各論：事例を中心とした内容の抜粋

ありがとうございます。

なお、本ガイドラインは4月には日本ロジスティクスシステム協会のHPにアップロードされる予定です。